



2022年5月10日

各位

会社名 名糖産業株式会社
 代表者名 代表取締役社長 三矢 益夫
 (コード番号 2207 東証プライム・名証プレミア)
 問合せ先 経理部長 栗本 正直
 (TEL.052-521-7113)

通期連結業績予想の修正および個別業績見込みと前期実績との差異ならびに
 減損損失(特別損失)の計上に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、2021年6月18日に公表いたしました2022年3月期の通期連結業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。また、当社は個別業績予想を開示しておりませんが、2022年3月期の通期個別業績見込みと前期実績値との間に差異が生じる見込みとなりましたのでお知らせいたします。さらに、2022年3月期におきまして、減損損失(特別損失)を計上することになりましたので、併せてお知らせいたします。

記

1. 2022年3月期 通期連結業績予想数値の修正(2021年4月1日~2022年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 21,300	百万円 400	百万円 1,200	百万円 4,800	円 銭 284.12
今回修正予想(B)	21,136	350	1,233	1,816	107.50
増減額(B-A)	△163	△49	33	△2,983	—
増減率(%)	△0.8	△12.5	2.8	△62.2	—
(ご参考) 前期実績 (2021年3月期)	24,180	403	1,356	1,023	60.60

2. 2022年3月期 通期個別業績見込みと前期実績値との差異(2021年4月1日~2022年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前期実績(A)	百万円 18,513	百万円 154	百万円 1,087	百万円 812	円 銭 48.12
当期業績見込み(B)	16,003	267	1,110	1,742	103.16
増減額(B-A)	△2,509	112	22	929	—
増減率(%)	△13.6	72.6	2.1	114.4	—

3. 修正の理由

(連結)

2022年3月期の通期連結業績予想につきましては、親会社株主に帰属する当期純利益については、下記の通り、特別損失に固定資産の減損損失を計上することになりましたので、前回予想を大幅に下回る見込みであります。なお、2022年3月期より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を適用するため、上記の連結業績予想の売上高は当該会計基準等を適用した後の金額となっております。前期実績の売上高は当該会計基準等を適用する前の金額となっております。当該会計基準等を適用した場合は、20,499百万円となります。

(個別)

2022年3月期の通期個別業績見込みにつきましては、売上高については、2022年3月期より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を適用するため、上記の個別業績見込みの売上高は当該会計基準等を適用した後の金額となっております。前期実績の売上高は当該会計基準等を適用する前の金額となっており、当該会計基準等を適用した場合は、15,290百万円となります。営業利益については、化成品事業が好調に推移したことなどにより、前期実績値を上回る見込みであります。また、当期純利益については、特別利益に固定資産売却益5,641百万円などを、特別損失に固定資産の減損損失4,235百万円などを計上することになりましたので、前期実績値を上回る見込みであります。

4. 減損損失(特別損失)の計上について

当社グループの食品事業セグメントにおける当社の菓子部門につきましては、原材料費や燃料費の高騰等といった経営環境の変化が生じていることに伴い今後の事業計画を見直した結果、事業の収益性が低下したことから、固定資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失4,124百万円として特別損失に計上いたします。

また、当社グループの食品事業セグメントにおける当社の粉末飲料部門につきましては、当社小牧工場の敷地内への新工場の建設を決議したことに伴い、既存の枇杷島工場の粉末飲料製造設備の一部について今後使用見込みがなくなる固定資産に対し、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失111百万円として特別損失に計上いたします。

これらにより、減損損失合計4,235百万円を特別損失に計上いたします。

(注) 上記予想は、現時点において入手可能な情報に基づいて算出しておりますが、今後の様々な要因により上記予想値とは異なる結果となることがあることをご承知おきください。

以 上